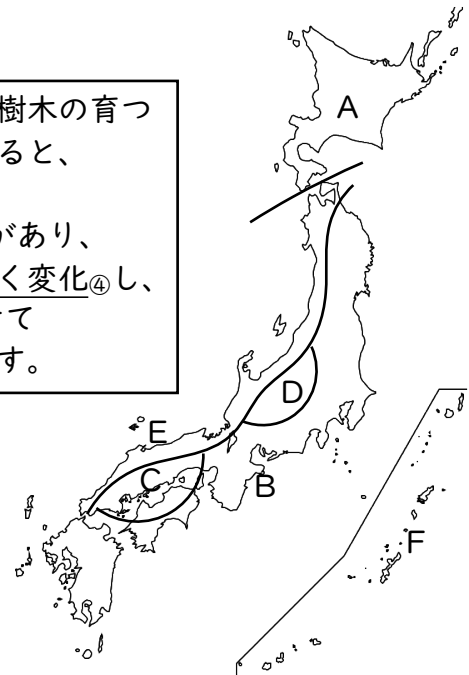


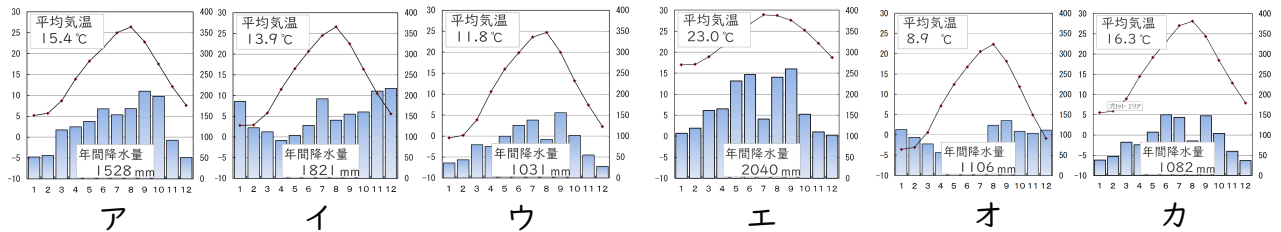
右の地図と次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本の気候は国土の大半が、四季の区別が明確で様々な樹木の育つ
 [①] 帯に属しています。国内の気候を細かく分けると、
 右の地図のような6つの区分に分ける②ことができます。
 気候を決定する要因には緯度・地形・海流などの影響③があり、
 このような自然の影響を受けて夏と冬では風向きが大きく変化④し、
 6月からほぼ1か月間続く [⑤] や、夏から秋にかけて
 日本を襲う [⑥] など、様々な気候現象が生まれます。



(1) [①]、[⑤]、[⑥]
 にあてはまる言葉を答えなさい。

(2) 下線部②について、地図中のA～Fにあてはまる
 気候の名前を答え、それぞれに当てはまる
 雨温図をア～カから、選び記号で答えなさい。



(3) 下線部③について、東北地方で初夏に発生する冷害の原因となる海流の名前と、その
 海流によってもたらされる冷たい北東風の名前を答えなさい。

(4) 下線部④について、このような風を何というか答えなさい。

(5) 地図中AやCのような気候と、Fのような気候の両方が一つの島の中で同時に見られる
 離島の名と、その島がある都道府県名を答えなさい。

(1) ①	(1) ⑤	(1) ⑥
(2) A の気候	A記号	(2) B の気候
(2) C の気候	C記号	(2) D の気候
(2) E の気候	E記号	(2) F の気候
(3) 海流	北東風	(4)
(5) 島名	(5) 県名	

- (1) ①にはケッペンの気候区分「温帯」が入ります。北海道の一部は亜寒帯、南西諸島や小笠原諸島は亜熱帯に属しています。憲法改正に関する条文は、日本国憲法第96条に規定されています。
- ⑤は「梅雨」⑥は「台風」なのは文脈からすぐに読み取れるでしょう。
- (2) Aは北海道の気候ですので、平均気温の最も低いオの雨温図（札幌）です。
 Bは太平洋側の気候です。梅雨・台風の影響があり、冬に少雨で気温の高すぎないアの雨温図（東京）です。
 Cは瀬戸内海の気候です。温暖で年間を通じて雨が少ないカ（高松）の雨温図です。
 Dは中央高地の気候です。冷涼で雨の少ないウ（松本）の雨温図です。
 Eは日本海側の気候です。冬に降雪（降雨）の多いイ（新潟）の雨温図です。
 Fは南西諸島の気候ですので、平均気温の最も高いエ（那覇）の雨温図です。
- (3) 太平洋岸の寒流、千島海流（親潮）に運ばれる冷たい湿った空気が、初夏に「やませ」となって東北地方に吹くと冷害が発生します。
- (4) 大陸と海洋の気温差により吹く季節風です。夏は南東から、冬は北西から季節風が日本に吹きます。
- (5) 鹿児島県にある屋久島には、九州地方最高峰である宮之浦岳（1936m）を中心に標高1500mが以上の高山が複数あり、冬は2m以上の積雪を記録します。一方、海岸部では暖流の影響を受け温帯から亜熱帯の気候となります。

(1) ① 温帯	(1) ⑤ 温帯	(1) ⑥ 台風	
(2) A 北海道の気候	A記号 オ	(2) B 太平洋側の気候	B記号 ア
(2) C 瀬戸内海の気候	C記号 カ	(2) D 中央高地の気候	D記号 ウ
(2) E 日本海側の気候	E記号 イ	(2) F 南西諸島の気候	F記号 エ
(3) 海流 千島海流	北東風 やませ	(4) 季節風	
(5) 島名 屋久島	(5) 都道府県名 鹿児島県		